

傷

名前すら知らない人の腕に抱かれ　さみしい夜がまだ終わらない

傷を傷で塗り重ねていく　そうやってしらないふりをして生きてきた

脱ぎ捨てた服を途中でたたむこと　捨てられるのはかなしいでしょう？

おそろいの枕がふたつ　おそろいでうらやましいね　わたしはひとり

傷ついた身体を流してくれるシャワー　さらに汚れてゆくような時間

ぬくもりが欲しかっただけ　ポイントは顔も名前も覚えないうこと